

令和3年（2021年）4月1日

山形大学附属学校園が支援基金を設立 ～教育環境の一層の充実と将来構想の実現に向けて～

【本件のポイント】

- 山形大学附属学校園は、GIGAスクール構想に係るICT環境の充実、将来構想の実現および教育環境の一層の充実を加速するための支援基金事業を開始します。
- ICTを利用した先進的な授業と教員の働き方改革促進の社会還元を目指します。
- 地域・家庭と協働し、郷土山形を基盤にSDGsを踏まえた「グローバル・シティズンシップ（地球市民）教育」を全学校園で将来構想の柱として展開します。



【概要】

山形大学附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）では、GIGAスクール構想の実現に向けたICT（情報通信技術）環境の充実と将来構想の実現を目的とする支援基金を、令和3年4月1日に設立します。すでに令和2年度より、山形大学附属学校園ではICT環境の整備を進め、園児・児童・生徒の学習へのICT活用、ICTの導入による教職員の働き方改革などを推進しています。さらに、大学と附属学校園の連携と協力を強化し、新しい形のコミュニティ・スクールの実現とともに、地域・家庭と協働しながら、郷土山形を基盤にSDGsを踏まえた「グローバル・シティズンシップ（地球市民）教育」を全学校園で将来構想の柱として展開していきます。

将来構想に係る環境整備については、文部科学省の予算措置と大学からの支援を受けて進めていますが、附属学校園のICT環境、将来構想、教育環境の一層の充実を加速するため、広く寄付を募る「将来構想の実現に向けた支援基金」事業を開始しました。

文部科学省のSociety5.0における「学びの在り方の変革」^{（※1）}にも対応した、附属学校園におけるコロナ禍での挑戦的なICT授業の推進・充実とICTを利用した働き方改革の知見と成果は、山形県内の教育現場にも還元されることが期待されます。

なお、本基金の詳細については、山形大学ホームページの「山形大学基金」の「附属学校園への支援」よりご確認ください。

【背景】

令和2年度はコロナ禍において教育現場でも遠隔授業への対応など、さまざまな困難とそれらへの挑戦が続きました。また同年度は、文部科学省が推進する児童生徒に一人一端末というGIGAスクール構想元年でもあり、山形大学附属学校園でもICT導入と活用を進めてきました。また、附属学校園では、個々の教員の負担を軽減するために、令和2年9月からはGIGAスクールサポーター制度^{（※2）}も導入し、授業におけるICT活用の支援も推進しています。

【今後の展望】

令和3年度からは授業におけるICT活用のさらなる推進と並んで、コミュニティ・スクールの実現や郷土山形を基盤とした「グローバル・シティズンシップ（地球市民）教育」を柱とする附属学校園の将来構想も開始します。広い視野と高い志を持ち、「共生社会」を創造的に生き抜く人材の育成に向けて、グローバル・コミュニケーションに必要な英語を幼・小・中一貫した教育体制で学ぶなど、遊びから探求的な学びに至るまでの学習を通して、社会の変化を乗り越える力を身につけた子どもたちを育てます。

附属学校園での教育充実のため、この度広く寄付を募り、附属学校園の教育・研究の成果をより一層充実したものとして地域に還元します。

お問い合わせ

学術研究院 教授 中井 義時（附属学校運営部長・大学院教育実践研究科担当）
TEL：023-628-4410 メール：nakaiei@e.yamagata-u.ac.jp

※用語解説

1. Society5.0: AI 技術の発達に伴い、文部科学省では取り組むべき方向性として「公正に個別最適化された学び」「基礎的読解力、数学的思考」「情報活用能力」「文理分断からの脱却」を挙げています。
2. GIGA スクールサポーター制度：GIGA スクール構想を円滑に展開するために、山形大学附属学校園では教室での ICT 活用を技術面・運用面からサポートする人材を配置しています。